

三月九日（月）

「答辞」

この学年で、このクラスでもう二度といけないかと思うと淋しさがつのります。大会やコンクールに向けて全力を出し切った最後の夏。もっと皆と一緒に走りたかった。一緒に奏でたかった。引退の日、もう明日からはあたり前に部活動に参加することがない、と思うと心にぽっかりと穴があいたように感じました。部活動で学んだ多くのことは、今の自分たちを支えてくれています。たくさんぶつかり、たくさん語り合えた仲

間に出会えたことは、一生の財産
です。最後の体育大会。皆の思い
を込めたクラス旗を中心に円陣を
組んだことも、昨日のことのよう
に思い出されます。三年間やって
きても、大縄跳びの始まりは、い
つも緊張しました。ピストルが鳴
った瞬間、一斉に「一～二～三～」
と数え始めます。その声は力強く、
そろっていて、今までの二年間と
は大きく違っていました。足が疲
れ、痛くなっても「このクラスで
跳びたい!」「このクラスで一番
になりたい!」その気持ちの方が
勝っていました。 <続く>